

令和6年2月9日（金）

令和4・5年度 昭島市教育委員会研究指定校 研究発表会

## 研究主題

# 関わり合いの中で具体的に表現する児童の育成

～考えを具体化し、共有するためのICT～

# 指導案集

第1学年 生活科 『もうすぐ 2年生』	P. 1
第2学年 生活科 『動くおもちゃ研究所』	P. 11
第3学年 体育科 『つなげ！ キャッチバレーボール』	P. 19
第4学年 音楽科 『オリジナルチャイムの旋律をつくろう』	P. 27
第5学年 社会科 『未来とつながる情報』	P. 35
第6学年 国語科 『わたしたちはこうやって生きていきたい』	P. 45



昭島市立玉川小学校

当発表資料の表記は、「表記便覧（平成23年7月7日版）東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課」及び「常用漢字表」に準拠しています。

## 第1学年 生活科学習指導案

日 時 令和6年2月9日(金)  
第5校時 13:30~14:15  
対 象 第1学年2組 全34名  
場 所 2階 1年2組 教室  
授業者 下田 誠

### 1 単元名 もうすぐ 2年生

### 2 単元の目標

自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分の成長を支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、成長への願いをもって、意欲的に生活できるようにする。

### 3 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かる。 自分自身の良さや可能性に気付いている。	自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分の成長を支えてくれた人々について考えている。 自分なりに成長を振り返りながら、その思いや考えを表現していたり、他者に伝えたりしている。	自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持つ。 これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとしている。

### 4 指導観

#### (1) 教材観

該当する学習指導要領の内容

③自分自身の生活や成長に関する内容… (8) 生活や出来事の伝え合い (9) 自分の成長

(8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることの良さや楽しさが分かるとともに、すすんで触れ合い交流しようとする。

(9) 自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする。

本単元では、入学してからの体験や学習から想起して、自身の成長を見つめながら、自分の考えや思いを伝えていく。その中で、周囲で支えてくれた人々の存在に気付いたり、感謝の気持ちをもったりすること、そして自信や意欲をもってこれからの生活を送れるようにする。自身の成長を振り返る活動では、学習や行事などを取り上げ、作品を見比べたり、思いを周囲に伝えたりすることなどの活動を行っていく。友達や幼児と交流したりすることを通し、内面の成長にも気付けるようにする。この活動を通して、2年生への進級に希望をもち、意欲的に生活しようとする態度を育て自立への基礎を養っていく。

## (2) 児童観

本学級の児童は、様々な学習・活動について何事も意欲的に取り組むことができる児童が多い。大半の児童は学習の振り返りで自身の思いを言語化したり、文章化したりすることができる。

本単元では、入学してからの学校生活の中で「できるようになったこと」や「頑張ることができたこと」に着目させる。4月からの学習内容や行事、作品などを用いて振り返ることで、どの児童も自信をもって自身の思いを発信できると考える。これまでの学習で、SKYMENUでの資料作成や、イラストを描いて説明したり、実演して表現したりと様々な方法で発表を繰り返してきた。こうした経験を生かして「できるようになったこと」を発表ノートを活用して発表したり、紙芝居や作文などで発表したり、実演による発表をしたりと選択できるようにすることで意欲的に取り組み、2年生へのステップアップにつなげていきたい。

## (3) 研究主題に迫るための手だて

### ① 意欲を高める授業づくり

単元の最終のねらいを「学校でできるようになったことを新1年生に伝えよう～わたしたちスーパースター1年生～」と設定する。新入生に学校の楽しさを伝えることをゴールにし、責任感や緊張感をもたせたい。相手意識をもつことで、幼稚園・保育園児に分かりやすく発表するなどの工夫も生まれると期待する。

### ② 関わり合う場の設定

様々な学習で発表活動を行ってきた経験をもとに、幼稚園・保育園児に交流しながら「できるようになったこと」を発表する。まず、入学から今日まで学校でできるようになったことを自分自身で振り返り、友達に互いの成長を伝え合う活動を取り入れる。他者との関わりの中でできるようになったことを交流する中で、さらに気付かせるようにしていく。次に、それぞれ「できるようになったこと」を、項目ごとに2～4人のグループに分ける。幼稚園・保育園児に、学校の楽しさや期待がもてるよう、話し合いながら自分たちの方法で表現し、発表する活動を行う。発表に向けて準備する中でも、友達との関わりを意図的に増やしたり、自身の考えを表現する時間を確保したりする。聞き合う中で、自分の良さを認めてもらえたり、友達の工夫を参考にしたりする。

③ 考えの可視化

自分たちの伝えたいことに合わせて表現方法を選択させる。あらかじめ表現方法（言語、絵、実演、スライドなど）を具体的に教師が示す。その中で、より思いが伝わりやすいものをグループで相談して、決定していく。自分の考えを具体的に表現するために、手法やツールを選べるようになってほしい。

5 単元指導計画・評価計画(全14時間)

時	○主な学習活動	・指導事項 ◇留意点	【評価の観点】 評価規準
1	<p>○1年生になって「できるようになったこと」を思い出す。</p> <p>○「学校でできるようになったこと」を誰に伝えたいか、考え話し合う。</p>	<p>・作文や絵、行事などを振り返りながら、入学してからの出来事を思い出す。</p> <p>・伝えたい人を沢山出させた中で、「新1年生に伝えたい」という意見に注目させる。</p>	<p>【知】自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かっている。</p> <p>【態】これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつ。</p>
<p>ミッション：「学校でできるようになったことを新1年生に伝えよう ～わたしたちスーパー1年生～」</p>			
2	<p>○自分の「学校でできるようになったこと」をなぜできるようになったのか、ワークシートにまとめる。</p>	<p>・自分自身の頑張り、周囲の助けなどを思い出し、「<u>学習</u>」「<u>生活</u>」「<u>友達</u>」の三つの視点に分けてまとめる。</p> <p>◇習い事でできるようになったことではなく、学校での出来事（学習・生活・友達との関わり）について想起させる。</p>	<p>【知】自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かっている。</p> <p>【思判表】自分の成長を支えてくれた人々について考えている。</p>
<p><b>可視化</b> <u>三つの視点</u>の分類</p>			

3 4	<p>○自分の「学校でできるようになったこと」を伝え、友達と交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>関わり</b> 友達との交流 友達の良さ</p> <p><b>可視化</b> 三つの視点の分類</p> </div>	<p>◇自分でできるようになったことや友達と協力してできるようになったことを、交流を通して深める。</p>	<p><b>【知】</b> 自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かっている。</p> <p><b>【思判表】</b> 自分なりに成長を振り返りながら、その思いや考えを表現していたり、友達に伝えたりしている。</p>
5 6 7 8	<p>○新1年生に三つの視点のどんなことを伝えたいか考えさせ、同じ項目ごとに、グループを分ける。</p> <p>○「学校でできるようになったこと」を幼稚園・保育園児に伝えるための方法について話し合う。</p> <p>○自分たちで選んだ方法で、「学校でできるようになったこと」をまとめ、準備する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>意欲</b> 幼稚園、保育園児への発表準備</p> <p><b>関わり</b> グループでの発表準備、発表の工夫</p> <p><b>可視化</b> 写真、動画、絵、実演、スライドなど</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の活動で行った「できるようになったこと」の項目を中心に、同じテーマごとに2～4人のグループに分ける。</li> <li>・どのような発表方法があるか、提示する。</li> <li>・自分の頑張りや周囲の助けがあったことなど、できるようになった訳も取り入れるよう、指導する。</li> <li>・発表時間を提示し、時間内に発表できるよう内容量も考えさせる。</li> <li>・幼稚園や保育園児に分かりやすいよう、相手意識をもって発表するよう指導する。</li> </ul>	<p><b>【思判表】</b> 自分なりに成長を振り返りながら、その思いや考えを表現している。</p> <p><b>【知】</b> 自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かっている。</p> <p><b>【態】</b> これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつ。</p>

<p>9 10 本時</p>	<p>○「学校でできるようになったこと」を、グループ同士で発表し合い、良い点、改善点を伝え合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>意欲</b> 幼稚園、保育園児への発表準備</p> <p><b>関わり</b> 学級内でのリハーサル</p> <p><b>可視化</b> 写真、動画、絵、実演、スライドなど</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リハーサルを行い、それぞれのグループで見合う。</li> <li>・保育園・幼稚園児に、より伝えやすくするためにはどうすれば良いか、伝え合う。</li> </ul>	<p><b>【思判表】</b> 自分なりに成長を振り返りながら、その思いや考えを表現していたり、他者に伝えたりしている。</p> <p><b>【態】</b> これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとしている。</p>
<p>11</p>	<p>○前時のアドバイスを受けて、発表の仕上げを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>意欲</b> 幼稚園、保育園児への発表準備</p> <p><b>関わり</b> グループでの発表準備・リハーサル</p> <p><b>可視化</b> 写真、動画、絵、実演、スライドなど</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他のグループからのアドバイスを受けて、発表の仕方をさらに改善・改良させる。</li> <li>・本番に向けて、グループでリハーサルを行う。</li> </ul>	<p><b>【思判表】</b> 自分なりに成長を振り返りながら、その思いや考えを表現していたり、他者に伝えたりしている。</p> <p><b>【態】</b> これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとしている。</p>
<p>12 13</p>	<p>○幼稚園・保育園児への発表を行う。</p> <p>○振り返りを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>意欲</b> 幼稚園、保育園生への発表</p> <p><b>関わり</b> 幼稚園、保育園生との交流</p> <p><b>可視化</b> 写真、動画、絵、実演、スライドなど</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの園に来校してもらい、二日間かけて発表を行う。1回目の発表後に、振り返りを行い、2回目の発表に生かすようにする。</li> </ul>	<p><b>【思判表】</b> 自分なりに成長を振り返りながら、その思いや考えを表現していたり、他者に伝えたりしている。</p> <p><b>【態】</b> これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとしている。</p>

14	<p>○単元を振り返り、2年生になることへの期待がもてるよう、2年生になってしてみたいことについて伝え合う。</p> <p>○キャリアアルバムを使って、自己評価をする。</p> <div data-bbox="240 510 756 622" style="border: 1px solid black; background-color: #e0e0e0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>可視化</b> キャリアアルバムの活用</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分らしさを捉え、自分自身の良さや可能性に気づき、これからの成長への願いをもって、意欲的に成長できるようにする。</li> <li>・国語「いいこと いっぱい、一年生」の学習と合わせて考えさせる。</li> </ul>	<p><b>【知】</b> 自分自身の良さや可能性に気付いている。</p> <p><b>【態】</b> これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとしている。</p>
----	---	---	---



6 本時（10時間目／全14時間）

(1) 本時の目標

「学校でできるようになったこと」をグループ同士で発表し合い、新入生への発表に向けて良い点、改善点などに気づき、伝えることができる。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容・活動	・指導事項 ◇留意点	【評価の観点】 評価規準 (評価方法)
導入 5分	○前時までの学習を振り返る。  ○本時のめあてを確認する。	・「学校でできるようになったことを新1年生に伝えよう」のミッションを確認する。	
	○発表グループ、方法の確認	<div data-bbox="422 929 1189 1041" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     グループどうしで、はっぴょうし、よいところやアドバイスを つたえあおう。                 </div> ・発表のポイントを押さえる。 (話す側・聞く側)	
展開 35分	○【活動①】 ①「学校でできるようになったこと」を自分たちで選んだ方法で、他の班に発表する。  ②質問や感想を、発表者に伝え、交流する。  ③すてきカードを書く。発表グループは、振り返りカードを書く。  ○発表の振り返りを全体で共有し、次の発表グループに生かす。	・ペアグループをつくり、お互いの発表を見せ合う。  ◇発表者が多く、周囲の声で聞き取りにくくなることを考慮して、半分のグループは1年1組教室で発表させる。  ・すてきカードには、友達を発表を聞いて観点を押さえて書くよう、指導する。 ①発表の内容 ②発表の仕方 ③改善点	【思判表】自分なりに成長を振り返りながら、その思いや考えを表現したり、他者に伝えたりしている。 (発表・すてきカード)

	<p>○発表グループを交代する。</p> <p>○【活動②】</p> <p>①～③の活動を発表グループを変えて、交流する。</p>	<p>・1回目の発表の後、発表の見せ方、話し方の良さを振り返らせ、次の発表の改善を促す。</p>	<p>【態】 これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとしている。 (行動・発表)</p>
まとめ5分	<p>○本時の振り返りを全体で共有する。</p>	<p>・友達から教えてもらったアドバイスを受けて、良い点・改善点に気付き、次時に生かす。</p>	

(3) 板書計画

2/9 「学校でできるようになったことを新1年生に伝えよう  
～わたしたちスーパー1年生～」

グループどうして、はっぴょうしあい、よいところやアドバイスを つたえあおう。

タイマー

【学しゅうのながれ】

①はっぴょうじゅんぴ

②はっぴょう

③しつもん、かんそうタイム

④すてきカード

ふりかえりカード

※ はっぴょうグループをこうたいする。

すてきカード

①はっぴょうをきいて すてき。

②はっぴょうのしかたが すてき。

③こうすればもっと すてき。

ふりかえり

・大きなこえではっぴょうして、とてもわかりやすかった。

・もっと〇〇したほうがいとアドバイスをももらったので、つぎからやってみようとおもう。

アドバイスをうけて、さらにいいはっぴょうにできるようにしよう。

(4) ワークシート  
ワークシート①

# すてきカード

すてき！  
ポイント

- ① はっぴょうを きいて すてき。
- ② はっぴょうの しかたが すてき。
- ③ こうすれば、もっと すてき。

グループへ

# ふりかえりカード

名まえ

## 【はっぴょう①】

はっぴょうしたときのことを ふりかえろう。	よくできた	できた	もうすこし
こえの大きさ	◎	○	△
あいてを見る	◎	○	△
みぶり 手ぶり	◎	○	△
しつもの うけこたえ	◎	○	△

## 【よかったところ・がんばったところ・かんそう】

.....

.....

## 【はっぴょう②】

はっぴょうしたときのことを ふりかえろう。	よくできた	できた	もうすこし
こえの大きさ	◎	○	△
あいてを見る	◎	○	△
みぶり 手ぶり	◎	○	△
しつもの うけこたえ	◎	○	△

## 【よかったところ・がんばったところ・かんそう】

.....

.....

めあて

1年 くみ 名まえ

	できるように なったこと	どのように	できるように なったわけ
学しゅう			(じぶんて ともだち 〇をしよう)
生かつ			(じぶんて ともだち 〇をしよう)
ともだち			(じぶんて ともだち 〇をしよう)

## 第2学年 生活科学習指導案

日 時 令和6年2月9日(金)  
第5校時 13:30～14:15  
対 象 第2学年2組 全32名  
場 所 2階 2年2組 教室  
授業者 山田 優莉子

### 1 単元名 動くおもちゃ研究所

### 2 単元の目標

動くおもちゃを作って遊ぶ活動を通して、おもちゃの動きを工夫したり遊び方を工夫したりすることができ、身近なものを使ってできる遊びの面白さ、素材のもつ特徴や不思議さ、約束やルールを守って遊ぶと楽しいこと、道具や用具の準備や片付け、掃除、整理整頓などをすると気持ち良く遊べることに気付き、みんなと楽しみながら遊びを創り出すことができるようにする。

### 3 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	① 動くおもちゃを作って遊ぶ活動を通して、遊びの面白さ、素材のもつ特徴や不思議さに気付いている。 ② 約束やルールを守って遊ぶ楽しさ、道具や用具の準備、片付け、掃除、整理整頓などをすると気持ち良く遊べること等に気付いている。	動くおもちゃを作って遊ぶ活動を通して、試行錯誤しながらおもちゃの動きを工夫したり、遊びが楽しくなるように工夫している。	動くおもちゃを作って遊ぶ活動を通して、みんなで楽しい遊びを創り出そうとしている。

### 4 指導観

#### (1) 教材観

該当する学習指導要領の内容

(6) 身近な自然を利用したり、身近にあるものを使ったりするなどして遊ぶ活動を通して遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

(8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることの良さや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。

本単元は、児童がこれまでの経験を生かして様々な素材を使った動くおもちゃ作りを通し、おもちゃの動きや遊びを工夫する学習である。その中で、「もっと〇〇したい」という願いをもち、自分のおもちゃと友達のおもちゃを比べたり、動きを予想したりして考えを深めていく。また、「見付ける」「比べる」「例える」などの分析的に考える学習活動をしたり、「試す」「見通す」「工夫する」などの創造的に考える学習活動をしたりする。さらに、気付いたことや考えたことは友達と伝え合うことで確立され、その気付きが関連付けられることで、児童一人一人の学びが深まっていく。

おもちゃ作りに使う素材では、ゴムや磁石、風など「目に見えない力」を実感し、自然の不思議さを感じながら素材の特徴を生かした遊びを創り出せるようにしていく。そして、このような遊びを楽しくする工夫や遊びを創り出す工夫をすることで、友達と協力して互いの関係を豊かにし、毎日の生活が充実したものにつながっていくことを期待している。

### 【作成するおもちゃ】

#### ア 共通して作る基本のおもちゃ

##### (ア) ジャンプロケット

紙コップを主な材料とし、ゴムの力を利用するおもちゃ。児童は、跳ぶ高さに注目しながら、安定性や操作性を求めて工夫することが予想される。

工夫の例：コップの素材、ゴムの太さや量、ゴムの位置

##### (イ) パッチンがえる

厚紙を主な材料とし、ゴムの跳ね返りの力を利用するおもちゃ。児童は、跳ぶ高さの他に跳ぶ方向や跳ぶまでの時間にも注目すると考える。

工夫の例：厚紙の素材や大きさ、ゴムの量、ゴムの付け方

#### イ その他、児童が選択、発想して作るおもちゃ（オリジナルおもちゃ）

##### (ア) グリグリかめさん

ねじったゴムが戻る力で乾電池などが回って進むおもちゃ。進む様子を楽しんだり、目的地を作ったりして遊ぶことができる。

工夫の例：乾電池の大きさ、数、ゴムの付け方

##### (イ) パタパタぐるま

風を受けて進む車。竹串や錐の扱いに気を付ける。車を走らせる方法として、ゴムの力を利用することも考えられる。

工夫の例：風受けの大きさや角度、形、風の送り方

##### (ウ) ボートレース

磁石の力を利用し、直接、物に働きかけていないように見せながら物を動かす。鉄と磁石の間の厚紙にコースを描くなどして楽しむ方法がある。

工夫の例：磁石の種類、いろいろな鉄製品、その付け方

## (2) 児童観

本学級の児童は、創造性豊かで、自分なりに考えを膨らませながら学習に取り組むことができるが、興味をもてない活動については集中力を欠いたり、物事の本質からそれて楽しんでしまったりすることがある。また、自分の考えがもてず、手が止まってしまう児童もいる。第1学年では、季節を感じる学習を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくる楽しさを味わい、自然の物を使って遊びを創り出す様子も見られた。一方で、自分の思いや願いが強過ぎて友達と折り合いを付けられなかったり、粘り強く制作できなかつたりする児童もいた。

本単元では、自分の世界だけで遊びが完結してしまったり、良い考えをもっているのにそれをうまく表現できなかつたりする児童が、おもちゃ作りやおもちゃ遊びを通して、自分以外の友達と関わられるよう支援していく。また、着眼点は良いが、それを形にすることができない児童が、友達と関わることでヒントを得ながら具現化できるようにしていきたい。そして、いろいろなことに興味を示すが、それが長続きしない児童もおもちゃ作りに熱中できるよう工夫していく。

I C Tの活用においては、主に授業支援ツールを用いて様々な教科で自分の考えを可視化し、共有することを行ってきた。特に、低学年にも操作しやすいカメラ機能を用いて写真を共有することで、児童は自分の考えを表現した。写真を共有しながらであれば対話による関わり合いもしやすいようである。また、可視化された友達の考えを見て、その良さに気付いたり、伝え合ったりする姿も見られたので、本単元でもI C Tを有効に活用していきたい。

## (3) 研究主題に迫るための手だて

### ① 意欲を高める授業づくり

単元名を「動くおもちゃ研究所」とし、単元の終盤には1年生に向けて「新作発表会」を行う。また、おもちゃ作りを楽しみながらも、自分のおもちゃの工夫や改善点を伝える活動を適宜設定し、交流させる。おもちゃについて友達と交流することで、児童が自分のおもちゃに向き合ったり、作った過程を振り返ったりする機会にする。単元を通しておもちゃを試行錯誤しながら作ることに挑戦させていきたい。そして、友達のおもちゃの工夫を知ること、自分のおもちゃ作りのヒントにさせ、制作意欲の維持、向上を図る。児童は、「新作発表会」に向けて自分の工夫の過程を記録したり、友達のおもちゃとの共通点や差異点を見付けたりしながら学習を進めていく。

### ② 関わり合う場の設定

おもちゃは、児童一人一人が自分なりの工夫をしながら「新作」をキーワードに制作する。その中で同じ種類のおもちゃ・全く違うおもちゃなど様々なものの中で比較したり、一緒に遊んだりする活動を通して、おもちゃ作りを追究する。

また、考えがもてず活動が止まってしまう児童もいるため、同じ種類のおもちゃ同士でグループ(3~4人)をつくり、困った時にすぐに相談できる環境づくりを行う。そして、他のグループと交流する時間を設けることで、発想の転換を図ったり、工夫の行き詰まり感(新作)を解消したりすることをねらっていく。友達のおもちゃ作りの過程を知り、写真を見て気付いた友達の工夫を自分のおもちゃ作りに取り入れたり、「この工夫をしてみたいけど、どうやっているの



か。」という疑問を友達に直接聞いたり、様々な方法を通して友達と関わりながら、自分のおもちゃをパワーアップできるようにする。

「共通して作る基本のおもちゃ」については、指導者が順を追って作り方を指導するのではなく、見本を基にグループで作らせる。友達と「こうだよ」「あんだよ」と言いながらおもちゃを作ることで楽しさを味わってほしい。

### ③ 考えの可視化

毎時間のおもちゃ作りの際に、どのように工夫したのかを写真や動画で撮り、記録に残していく。どのような段階を経て、おもちゃ作りを行ったのか、その時間の振り返りを学習支援ツールに残していくことで、次の時間のおもちゃ作りにつなげていく。また、考えがもてず活動が止まってしまう児童には、友達が記録した写真や動画を参考にさせながら活動を進めさせる。

単元のまとめでは、自分のおもちゃ作りの過程や工夫を1年生に「新作発表会」として紹介しながら遊ぶことで、自分や友達のおもちゃの良さに気付くことができる活動を設定している。友達に紹介する際には、どの方法を使えば自分のおもちゃ作りの過程を紹介できるのかそれぞれが方法（紙芝居・イラスト・スライド・本など）を考え、伝える工夫を行う。2学期の「地域のお店の紹介」を3～6人のグループで行ったことを生かし、今回は自分一人で行う表現方法を考えさせる。

## 5 単元指導計画・評価計画(全20時間)

時	○主な学習活動	・指導事項 ◇留意点	【評価の観点】 評価規準
1 2	<p>○指導者が行う「新作発表会」を見て、単元名「動くおもちゃ研究所」について知る。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">動くおもちゃの新作発表会をしよう。</p> <p>○それぞれの材料を使い、どのように動かせるのか予想する。</p> <p>○予想を基に、それぞれの素材（ゴムや磁石など）がどんな動きをするのか試す。</p> <p>○試して気付いたことを共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>意欲 「新作発表会」というゴールイメージ</p> <p>関わり 友達と一緒に活動できる環境</p> <p>可視化 気付いたことの共有（イメージマップ）</p> </div>	<p>・児童には「新作」を強調しつつ、児童に工夫の余地を感じさせる紹介をする。</p> <p>・「動く」おもちゃ作りであることを確認させ、その後の活動に見通しをもたせる。</p> <p>◇素材遊びを通して、素材の特徴を捉えることができるようにする。</p> <p>・事前に想定される安全上の注意事項を伝える。</p> <p>◇安全面について全体指導した方が良い事例については活動をストップさせ、確実に伝える。</p>	<p>【知技】素材のもつ特徴や不思議さに気付いている。</p>

<p>3 4 5 6 7</p>	<p>○ゴムで動くおもちゃ「ジャンプロケット」を作る。 ○作ったおもちゃで遊ぶ。</p> <p>○ゴムで動くおもちゃ「パッチンがえる」を作る。 ○作ったおもちゃで遊ぶ。</p> <p>★大切にしたい児童の活動★</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作る ・試す ・遊ぶ ・考える</li> <li>・見る ・聞く ・力を合わせる</li> </ul> <p>○自分のおもちゃを振り返る。 ○友達のおもちゃで遊んで「よかったところ」をカードに書いておもちゃごとに掲示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>意欲</b> 作ったり遊んだりできる自由度の高い環境</p> <p><b>関わり</b> グループ内での共有、他グループとの交流</p> <p><b>可視化</b> 画像の撮影、ワークシート</p> </div>	<p>◇作り方を一つずつ説明するのではなく、児童が見本を見ながらグループで話し合っ て作るようにさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作るだけでなく、おもちゃ作りを通して学んだことの振り返りをする。</li> <li>・様々な道具を使うため、安全に活動できるよう約束事をみんなで共有する。</li> </ul> <p>◇同じ素材でもいろいろなおもちゃが作れることに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・違うグループとも交流させ、自分のおもちゃ作りの参考にさせる。</li> </ul>	<p>【知技】約束やルールを守って遊ぶ楽しさ、道具や用具の準備、片付け、掃除、整理整頓などをすると気持ち良く遊べることに気付いている。</p> <p>【思判表】試行錯誤しながらおもちゃの動きを工夫したり、遊びが楽しくなるように工夫している。</p>
<p>8 9 10 本時 11 12 13</p>	<p>○おもちゃのパワーアップについて考える。</p> <p>○おもちゃをパワーアップさせる。①</p> <p>○おもちゃをパワーアップさせる。②</p> <p>○オリジナルのうごくおもちゃを作る。 (4指導観(3)教材観参照)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>意欲</b> 友達との情報共有、研究所や新作という設定</p> <p><b>関わり</b> おもちゃ作りの交流</p> <p><b>可視化</b> 画像の撮影、ワークシート</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ジャンプロケット」「パッチンがえる」を基に、パワーアップ(新作)を考える。</li> <li>・どんなパワーアップができるのか予想させる。</li> <li>・活動を振り返らせる。</li> <li>・教科書を参考にさせ、様々な素材から動くおもちゃを作らせる。</li> <li>・第10時までに行ったパワーアップの方法を想起させ、おもちゃ作りをさせる。</li> </ul>	<p>【思判表】試行錯誤しながらおもちゃの動きを工夫したり、遊びが楽しくなるように工夫している。</p>
<p>14 15 16 17 18</p>	<p>○新作発表会の準備をする。</p> <p>○学級内でリハーサルを行う。</p> <p>○新作発表会を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表方法をおもちゃの特性や自分の得意なことに合わせて考えさせる。</li> <li>・一人一人が発表を行うが、ペアでのアドバイスタイムやリハーサルを通して、友達の意見も参考にさせる。</li> </ul>	<p>【態】動くおもちゃを作って遊ぶ活動を通して、みんなで楽しい遊びを創り出そうとしている。</p>

19	<p>○振り返りを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">意欲</span>学級を超えての新作発表会</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">関わり</span>新作発表会に向けての学級内リハーサル</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">可視化</span>画像や動画の使用、紙芝居等の表現方法</p> </div>	<p>◇おもちゃ作りで試して修正を繰り返した小さなサイクルや、友達の活動にヒントや刺激をもらって進めたことへの価値付けを行う。</p>	
----	--	---	--

6 本時（10時間目／全19時間）

(1) 本時の目標

試行錯誤しながらおもちゃの動きを工夫したり、遊びが楽しくなるように工夫したりする。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容・活動	・指導事項 ◇留意点	【評価の観点】 評価規準 (評価方法)
導入 5分	○前時までの学習を振り返り、本時のめあて、自分のめあてを確かめる。  新作発表会に向けて、おもちゃをパワーアップさせよう。	・これまでの学習を通して、パワーアップさせるためには、どのような方法があるのか確認する。	
展開 30分	<p><b>研究タイム</b> ○自分のおもちゃをパワーアップさせる。(13分)</p> <p><b>発見タイム</b> ○同じおもちゃ同士で、どのような工夫をしているのか見合う。(4分)</p> <p><b>研究タイム</b> ○自分のおもちゃをパワーアップさせる。(13分) ・「新作発表会」に向けて成功も失敗も研究過程を写真に残す。</p>	<p>・パワーアップさせる際には、作る→試す→振り返る→作る…の3ステップで行うよう声掛けをする。 ◇場を分け、安全に活動することができるよう配慮する。</p> <p>・発見タイムでは、2分ごとに時間を区切り、交代で友達の工夫を見る。他のグループの工夫を見ながらどのような工夫をしたのかを質問したり、質問に対して自分の工夫を伝えたりする。</p> <p>◇制作途中でも、研究タイムの終わりにはその時間でどのような工夫をしたのかワークシートに記録させる。</p> <p>・写真に残す際には、後から自分が見た時に振り返りやすいような写真の撮り方で記録させる。</p>	【思判表】試行錯誤しながらおもちゃの動きを工夫したり、遊びが楽しくなるように工夫している。(行動観察)

まとめ 10分	○今日の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のめあてや、めあて達成のための方法について振り返らせる。</li> <li>・うまくいったことも、うまくいかなかったことも振り返らせ、次時からのオリジナルおもちゃ作りに生かせることを伝え、意欲が高まるようにする。</li> </ul>	
------------	--------------	---	--

(3) 板書計画

学しゅうのながれ ①めあての確認 ②研究タイム1 ③発見タイム ④研究タイム2 ⑤振り返り	動くおもちゃ研究所 わくわくするおもちゃを作ろう。 <パワーアップのヒント> ①どうしたいか考える (ゴール) ↓ ②どうすれば良いか考える (予想・工夫) ↓ ③試す→失敗…②③を繰り返す ↓ 成功! …①からスタート	振り返り ・おもしろい動きになったけど、高く跳ばなくなった。 ・高く跳ばそうとしてゴムを増やしたけど、壊れてしまった。 成功も失敗も生かして、次回からオリジナルおもちゃ作りをしよう。
--	--	--

### 第3学年 体育科学習指導案

日 時 令和6年2月9日(金)  
 第5校時 13:30~14:15  
 対 象 第3学年2組 全23名  
 場 所 1階 体育館  
 授業者 小原 颯

#### 1 単元名 つなげ！ キャッチバレーボール

#### 2 単元の目標

- ・基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動する動きによって、易しいゲームができるようにする。
- ・規則を工夫したり、簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
- ・運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりできるようにする。

#### 3 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現等	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	① いろいろな高さのボールを両手ではじいたり、打ったり、捕ったりして、相手コートに返球することができる。 ② ボールの方向に体を向けたり、ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりすることができる。	① 自分のチームの課題解決のために考えたことを友達に伝えている。 ② 自分のチームの特性にあった作戦を選んでいる。	① ゲームに進んで取り組みようとしている。 ② 用具の準備や片付けをしようとしている。 ③ ゲームを行う場や用具の使い方などの安全を確かめようとしている。 ④ 規則を守ってゲームをしたり、ゲームの勝敗の結果を受け入れたりしている。

## 4 指導観

### (1) 教材観

該当する学習指導要領の内容

#### E ゲーム

中学年のゲームは、「ゴール型ゲーム」、「ネット型ゲーム」及び「ベースボール型ゲーム」で構成され、主として、規則を工夫したり作戦を選んだり、集団対集団で友達と力を合わせて競い合ったりする楽しさや喜びに触れることができる運動である。

#### ア ネット型ゲーム

ネット型ゲームでは、その行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動するなどのボールを持たない時の動きによって、軽量のボールを片手、両手もしくは用具を使って、自陣の味方にパスをしたり、相手コートに返球したり、弾むボールを床や地面に打ちつけて相手のコートに返球したりして、ラリーの続く易しいゲームをすること。

本単元は、小学校学習指導要領の第3学年及び第4学年の内容E「ゲーム」(1)のイ「ネット型ゲーム」に関する学習である。技能に関しては、「ボール操作」及び「ボールを持たないときの動き」で構成されている。「ボール操作」はサービス、パス、返球(アタック)など、攻防のためにボールを制御する能力のことである。「ボールを持たないときの動き」は、「ボールの方向に体を向けたり、ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりする」などボール操作にいたるための動きや守備にかかわる動きのことである。ラリーを続けたりボールを持たないときの動きを考えたりすることは、高学年でのボール運動(ネット型)にもつながるため、系統性をもって行うことができる。

### (2) 児童観

本学年の児童は体育に肯定的な気持ちをもっている児童が多い。また体育の中でもゲームやボール運動の授業が好きな児童が多い。そのため、本教材に意欲的に取り組むことができる。

また、「ゲームやボール運動が楽しくなるために、必要なことはなんですか。」という質問に対して、「チームで練習すること」や「チームで関わり合うこと」という回答が多く、集団で取り組むことに意欲的な児童が多い。そのため、本授業ではチームタイムを確保し、作戦を考えたり、練習したりすることで、授業への意欲を高められるように設定する。

本学級の児童の課題は、自己表現が得意な児童と苦手な児童が極端に分かれていることである。グループ学習を行うと自己表現が得意な児童だけの意見でグループの意見が決まってしまうことがある。そのため、自己表現が苦手な児童も自分の考えを表現することができるように手だてを工夫する。

### (3) 研究主題に迫るための手だて

#### ① 意欲を高める授業づくり

本単元は児童にとって初めて経験するネット型ゲームである。キャッチバレーボールは本来、

手でボールを持つてはいけないバレーボールというスポーツに、キャッチしても良いというルールを加えることで、初めてネットゲームに触れる児童にも取り組みやすく、仲間と連携しながらラリーの攻防を楽しむことができるようにした教材である。またチームの人数、ネットの高さ、コートの大さなどを工夫することで易しいゲーム内容になり、どの児童でもボールゲームへの意欲を高めることができる。

チームの総当たりで試合をすることにより、「勝ちたい」という気持ちを引き出して意欲を高めたい。また負けが続いているチームは意欲が低くなりやすいため、教師が適切なアドバイスをし、一勝させることで意欲を高めさせる。

## ② 関わり合う場の設定

「オフ・ザ・ボールの動き」を考えることが単元の目標となる。そして、「オフ・ザ・ボールの動き」を適切にできるようになることでチームの勝利につながる。ゲームに勝利するためにはどのような動きをすれば良いかをチームで考える。また負けが続いているチームは勝ちが続いているチームの動画を見て、どのような動きがそのような結果をもたらしているのかを教師と共に考えさせる。

そのような児童同士、あるいは児童と教師の関わり合いが、より多く生まれるようにする手だてとして「ゲームの回数」と「1チームの人数」を工夫した。

「ゲームの回数」の工夫では、単元の中でゲームの回数をできるだけ多く設定した。このことによりゲームを通してのチームでの話合いや、作戦の立案等、児童同士が関わり合う機会が必然的に生まれるよう単元を設定した。

「1チームの人数」の工夫では、1チームの人数を3～4人の少人数にした。その理由として大人数の中では、自己表現が苦手な児童であっても、少人数であれば意見が述べやすいこと、他教科で、3～4人での話合いの経験があることから、関わり合いがより活発なものとなるようチームの人数の工夫に関わり合いの手だてとした。

## ③ 考えの可視化

ゲームでチームが勝利するためにはどのような動きをしたら良いのかが分かる動画を使って振り返り、何が良い動きなのかに気付かせる。チームごとに「良い動きカード」を作成し、考えの可視化ができるようにする。手だてでは自分のチームの作戦に生かすだけでなく、他のチームの良い動きにも気付くことができる。作戦タイムにはホワイトボードや作戦シートなどを児童が選んで活用できるように準備し、児童の考えを表現させる。

考えるツールとして本単元では「Padlet（オンライン掲示板アプリ）」を使用する。自分たちの動きを撮影した動画やチームの作戦を貼り付け、全てのチームがボードを見ることが可能になり、自分のチームと他のチームとの動きの比較を容易に行うことができる。自他の動きを比較することで、自他のチームの作戦の良さや動きの良さに気づき、他チームの良さを取り入れようとすることで、チーム内での関わり合いが活発になる。



(4) ゲームの規則など

1 規則

- ①【プレイヤーの数】 4人×5チームと3人×1チーム。3人対3人でゲームをする。
- ②【プレー上の制限】
  - ・3回で必ず相手コートに返す。2回以下で返した場合は反則。
  - ・サーブは下から投げ入れる。ボールがネットに触れて相手コートに入った場合はやり直し。
  - ・サーブ権は1回ずつ交替。
  - ・サーブはサービスラインから打つ。
  - ・1回目・2回目はキャッチを認める。3回目は必ずはじく。
- ③【反則項目】 以下の場合は反則とし、相手チームの得点になる。
  - ・ネットに触れる。(タッチネット)
  - ・ネットを超えてボールに触る。(オーバーネット)
  - ・一人が連続で2回ボールに触る。(ドリブル)
  - ・[3回目に]ボールをつかむ。(ホールディング)
  - ・4回以上ボールに触れて相手コートに返す。(オーバータイムス)
- ④【審判】 相互審判(セルフジャッジ)とし、自分のコートについてのジャッジを行う。
- ⑤【ローテーション】 自分のチームがサーブ権を得たら時計回りにローテーションをする。入ってきた選手がサーブを打つ。
- ⑥【アウトナンバー制】 1チーム4人のチームは得点が入る度にメンバーを1人入れ替える。
- ⑦【試合時間】 ゲームの時間は6分とする。

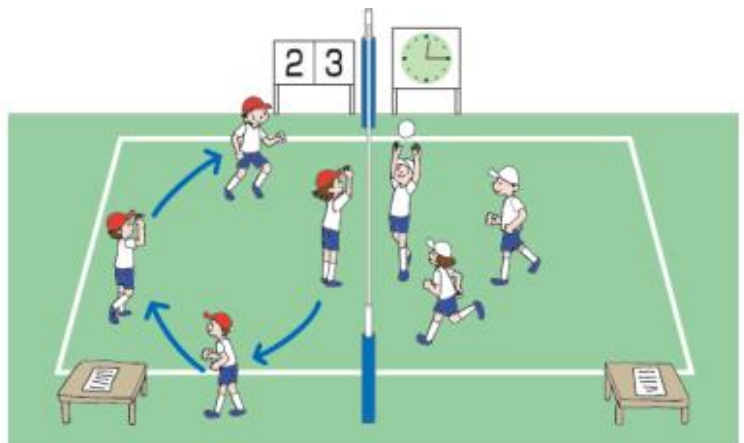
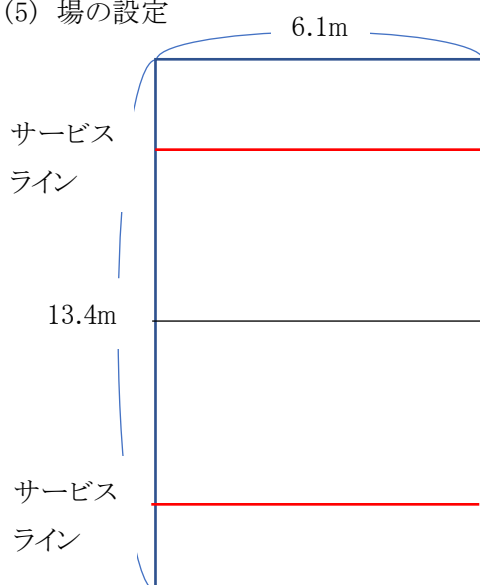
2 場の設定

- ①【コートの広さ】 13.4m×6.1m (バドミントンコート外側のラインを使用)

3 用具

- ①【ボール】 ソフトバレーボールの重さ30g～50gのものを使用する。
- ②【ネットの高さ】 170cm (バドミントン支柱より15cm高い)
- ③得点板を使用する。

(5) 場の設定



出典：小学校体育(運動領域)まるわかりハンドブック  
中学年(第3学年及び第4学年)、文部科学省

5 単元指導計画・評価計画(全8時間)

段階		ゲームの行い方を知り、ゲームの中で基本的なボール操作を身に付ける。				ボールを持たないときの動きを考えながらゲームに取り組む。			
時間		1	2	3	4	5 本時	6	7	8
学習活動	【オリエンテーション】 ①集合・整列・挨拶 ②学習内容の確認 ③準備運動 ④全体で確認しながら、用具の準備をする。 ⑤学習の内容を知る。 ・準備、安全 ・規則の確認 ・ボールの感覚づくり ⑥ゲームをする。 試しのゲーム ⑦整理運動 ⑧振り返りをする。 ・勝つためにはどうしたら良いのか考える。 ・規則の工夫を考える。 ⑨場の片付け ⑩整列・挨拶  意欲 ルールの工夫	①集合・整列・挨拶・学習内容の確認 ②準備運動 ③場の準備  ・チームや個人の課題を見付け、ゲームに生かす。 ・攻め方、守り方を考える。  ④ゲームをする。(リーグ戦) ゲーム① ⑤振り返り①をする。(全体→チーム) ・攻め方：ボールの方向に体を向ける動きを身に付ける。 ・守り方：ボールを持っていないときの動きを身に付ける。 ・チームで、作戦を考える。 ⑥ゲームをする。(ゲーム①と同じチームと対戦) ゲーム② ⑦整理運動 ⑧振り返り②をする。(チーム→全体) ・チームごとに今日の学習を振り返る。 ・全体で今日の学習を振り返る。 ・友達の良さを認め合う。 ・攻め方・守り方を振り返る。 ⑨場の片付け・整列・挨拶  意欲 リーグ戦 関わり チームタイムの設定 可視化 良い動きカード Padlet	①集合・整列・挨拶・学習内容の確認 ②準備運動 ③場の準備  ・チームや個人の課題を見付け、ゲームに生かす。 ・攻め方、守り方を考える。  ④ゲームをする。(リーグ戦) ゲーム① ⑤振り返り①をする。(全体→チーム) ・攻め方：ボールの方向に体を向ける動きを身に付ける。 ・守り方：ボールを持っていないときの動きを身に付ける。 ・チームで、作戦を考える。 ⑥ゲームをする。(ゲーム①と同じチームと対戦) ゲーム② ⑦整理運動 ⑧振り返り②をする。(チーム→全体) ・チームごとに今日の学習を振り返る。 ・全体で今日の学習を振り返る。 ・友達の良さを認め合う。 ・攻め方・守り方を振り返る。 ⑨場の片付け・整列・挨拶  意欲 リーグ戦 関わり チームタイムの設定 可視化 良い動きカード Padlet	①集合・整列・挨拶・学習内容の確認 ②準備運動 ③場の準備  ・チームや個人の課題を見付け、ゲームに生かす。 ・攻め方、守り方を考える。  ④ゲームをする。(リーグ戦) ゲーム① ⑤振り返り①をする。(全体→チーム) ・攻め方：ボールの方向に体を向ける動きを考えながら取り組む。 ・守り方：ボールを持っていないときの動きを考えながら取り組む。 ・チームで、作戦の確認をする。 ⑥ゲームをする。(ゲーム①と同じチームと対戦) ゲーム② ⑦整理運動 ⑧振り返り②をする。(チーム→全体) ・チームごとに今日の学習を振り返る。 ・全体で今日の学習を振り返る。 ・友達の良さを認め合う。 ・攻め方・守り方を振り返る。 ⑨場の片付け・整列・挨拶  意欲 リーグ戦 関わり チームタイムの設定 可視化 良い動きカード Padlet	①集合・整列・挨拶・学習内容の確認 ②準備運動 ③場の準備  ・チームや個人の課題を見付け、ゲームに生かす。 ・攻め方、守り方を考える。  ④ゲームをする。(リーグ戦) ゲーム① ⑤振り返り①をする。(全体→チーム) ・攻め方：ボールの方向に体を向ける動きを考えながら取り組む。 ・守り方：ボールを持っていないときの動きを考えながら取り組む。 ・チームで、作戦の確認をする。 ⑥ゲームをする。(ゲーム①と同じチームと対戦) ゲーム② ⑦整理運動 ⑧振り返り②をする。(チーム→全体) ・チームごとに今日の学習を振り返る。 ・全体で今日の学習を振り返る。 ・友達の良さを認め合う。 ・攻め方・守り方を振り返る。 ⑨場の片付け・整列・挨拶  意欲 リーグ戦 関わり チームタイムの設定 可視化 良い動きカード Padlet	○児童の良い動きを取り上げ、ボールを持っていないときにどのように動くのか共有する。 ○作戦を意識するように言葉掛けし、実際に動いて確認するように助言する。 ○勝敗を受け入れられるよう、意識付けを行う。 ○チームとしての良い動きや言葉掛けを見付け、称賛したり助言したりする。	○児童の良い動きを取り上げ、ボールを持っていないときにどのように動くのか共有する。 ○教師が見付けた良い動きを全体場で紹介し、他の児童へ広げられるようにする。 ○作戦を意識しながら動くことができたチームを称賛する。 ○勝敗を受け入れられたり、友達の考えを認めたりできるように指導する。 ○良さを伝えていた児童の言動を称賛したり、助言したりする。		
	た評価規準 学習活動に即し	知識・技能	①	①		②	②		②
	思・判・表		①	②		②	②	②	②
	主体	②・④		①・③			①・②		①・③

6 本時（5時間目／全8時間）

(1) 本時の目標

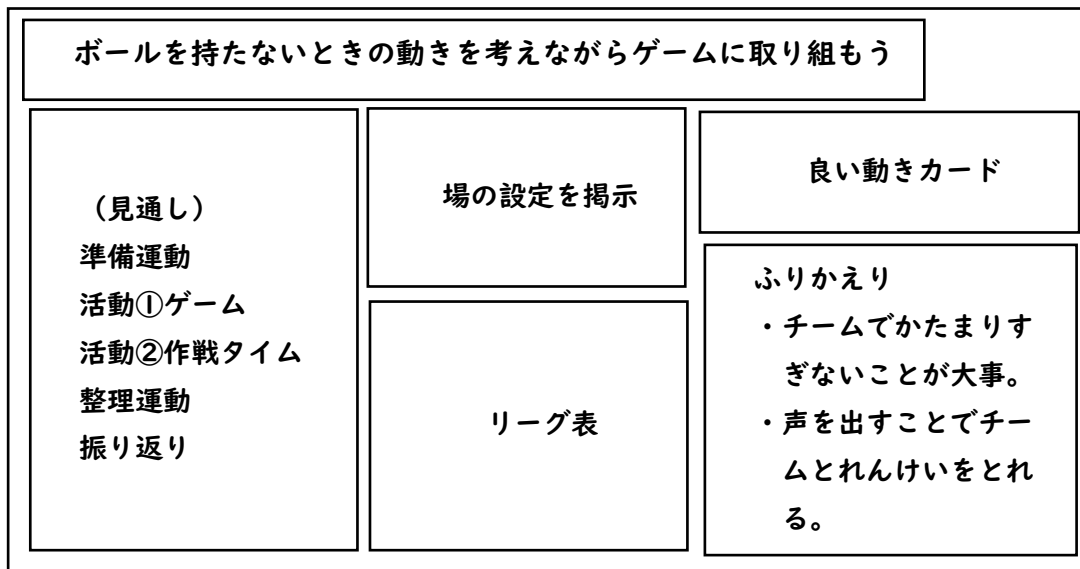
ボールを持たないときの動きを考えながらゲームに取り組む。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容・活動	・指導事項 ◇留意点	【評価の観点】 評価規準 (評価方法)
導入 1 2 分	<p>○挨拶、準備運動、場の準備をする。</p> <p>○学習内容の確認を行う。</p>	<p>・発問形式で児童に問いかけをする。前時までに学んだ「勝つための良い動き」について発言させ、児童の言葉から本時のめあてにつなげる。</p>	
<p>めあて:ボールを持たないときの動きを考えながらゲームに取り組もう。</p>		<p>・用具と場の準備を役割ごと協力して行わせる。撮影用のタブレットも準備させる。</p> <p>・チームごとに作戦を確認させる。</p>	
展開 2 0 分	<p>○ゲーム①を行う。 【6分】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3人対3人で行う。 (アウトナンバー制)</li> </ul> <p>○ゲーム①の振り返りをする。 【作戦タイム】(3分)</p> <p>チームごとに振り返りを行い、より良い作戦を考える。</p> <p>○ゲーム②を行う。 【6分】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3人対3人で行う。 (アウトナンバー制)</li> <li>・ゲーム①と同じ対戦相手と行う。</li> <li>・ゲーム②の振り返りをする。</li> </ul>	<p>・チームごとに素早く集合し、互いに元気な挨拶ができるようにする。</p> <p>・作戦ボードや作戦シートを準備し、児童に操作させながら、各ポジションの位置と役割について考えさせる。</p> <p>・負けが続いているチームに入り、守る位置や攻撃の際に狙う場所などを児童に考えさせる。</p> <p>・作戦を意識した動きができていない児童を見付けて称賛する。</p> <p>・ボールを持たないときに良い動きをしていた児童を紹介する。</p> <p>・負けが続いているチームに入り、守備位置や狙う位置を指示する。</p>	<p>【知技】 ボールの方向に体を向けたリ、ボールを操作しやすい位置に移動したりする行い方を理解し、実際に行うことができる。(観察・発言)</p> <p>【思判表】 自チームの特性にあった作戦を選んでいく。(作戦ボード)</p>

<p>まとめ 13分</p>	<p>○片付けを行う。 ○整理運動を行う。 ○今日の学びや進捗状況を振り返る。 ○次時の見通しをもつ。</p>	<p>◇使った部位をよくほぐすように助言する。 ・チーム内で作戦を意識して動いたことを交流させる。 ・チームごとの振り返りを全体で共有させる。</p>	
--------------------	---	---	--

(3) 板書計画



## 第4学年 音楽科学習指導案

日 時 令和6年2月9日（金）  
 第5校時 13：30～14：15  
 対 象 第4学年2組 全34名  
 場 所 3階 音楽室  
 授業者 宮崎 陽介

### 1 題材名 オリジナルチャイムの旋律をつくろう

### 2 題材の目標

- ・音やフレーズのつなげ方の特徴について、それらが生み出す良さや面白さなどと関わらせて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、旋律やリズムなどを工夫して、音楽をつくる技能を身に付けて実践することができる。
- ・音階、旋律、リズムを聴き取り、それらの働きが生み出す良さや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
- ・音階を基にして音楽をつくることに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりに取り組み、5音音階の旋律に親しむ。

### 3 題材の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	① <b>知</b> 音やフレーズのつなげ方の特徴について、それらが生み出す良さや面白さなどと関わらせて気付いている。 ② <b>技</b> 思いや意図に合った表現をするために必要な、旋律やリズムなどを工夫して、音楽をつくる技能を身に付けて実践することができる。	① <b>思</b> 音階、旋律、リズムを聴き取り、それらの働きが生み出す良さや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	① <b>態</b> 音階を基にして音楽をつくることに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。

## 4 指導観

### (1) 教材観

該当する学習指導要領の内容

(3) 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)をできるようにすること。

(ア) 即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ること。

(イ) 音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。

イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出す良さや面白さなどと関わらせて気付くこと。

(ア) いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴

(イ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴

ウ 発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(ア) 設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能

(イ) 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能

本題材では、都節音階や四七抜き音階、沖縄音階の5音音階を使って、音階による違いを味わいながら、音色や音の上がり下がり、リズム、テンポなどを工夫してチャイムの旋律をつくる。第1時では同じ1時間目始業のチャイムをイメージして試しにチャイムの音をつくる。第2時では二人組をつくり、それぞれのペアにチャイムの場面を指定し(始業、終業、休み時間、給食、掃除など)、それぞれのチャイムのイメージを個人で考えさせ、ワークシートに記入させる。ワークシートを基にペアで関わり合いながら、学校の場面に合ったチャイムの旋律をつくり、つくったチャイムが期間限定で実際に学校で使われる。

実際のチャイムに使われることで、児童が意欲をもって取り組み、また異学年や教職員に聴いてもらうことで相手意識をもたせ、活発な関わり合いや深い学びにつなげたい。

○個人でチャイムの旋律をつくる。

・チャイムの場面や使う音階を選択し、場面にふさわしい4小節の旋律をつくる。

○ペアでチャイムの旋律をつくる。

・個人でつくった経験を生かしながら、ワークシートで可視化した個人の考えを基にペアで4小節の旋律をつくる。

○使用するアプリケーション

・教育芸術社のwebアプリケーション「カトカトーン」を使って音楽づくりを行う。このアプリケーションを使用することで視覚的に旋律の流れやリズムを捉えたり、すぐに音を聴き返したりしながら試行錯誤して音楽づくりを行うことができる。楽器演奏の技能にかかわらず、どの児童も同様に音楽づくりを行えるようにした。

## (2) 児童観

児童の多くは、音楽の学習に対して、素直に楽しみながら活動し、意欲的に取り組んでいる。その一方で技能面の不安から、学習に消極的な児童も見受けられる。そのような児童にとっては、楽器演奏の技能にかかわらず、音楽づくりを行えるカトカトーンは有効な手だてとなると考える。

音楽づくりの活動は、第2学年の「ぷっかりくじら」で音を選び、いろいろな音のつなげ方を試し、旋律の動きによる感じの違いについて共有し合いながら旋律づくりを楽しんだ。第3学年の「海風切って」の学習では、「いるかの動きを音にしよう」というめあてで、いろいろな音のつなげ方を試しながら旋律をつくり、大きくジャンプする様子や一度ジャンプしてから潜る様子などを表現した。第4学年の鑑賞「白鳥」「堂々たるライオンの行進」では、動物の鳴き声や様子から音をイメージしながら、旋律の特徴を感じ取る学習をした。

今回、学校の場面に合ったチャイムの旋律をつくるにあたり、これまで学習してきた音をイメージすることは非常に重要であるので、その経験を生かしたい。常時活動でドラムサークルを行っており、即興的にリズムを叩く活動や、ソロ回しをしながら友達のリズムを模倣するなどの活動を通して、どのようなリズムにするか思いや意図をもって表現する児童が増えてきた。

本題材では、友達と協働しながら「チャイム」の意味や目的を考え、思いや意図をもって旋律をつくっていく。協働的に旋律づくりをすることを通して、自分自身の考えを広げたり深めたりできる児童を育てたい。

## (3) 研究主題に迫るための手だて

### ① 意欲を高める授業づくり

本学習では旋律をつくって終わりではなく、学校のチャイムとして使われることで児童の意欲を高めたい。また、「全校児童や先生に聴いてもらう」という明確な相手意識をもたせ、責任感から粘り強くより良い旋律をつくり続ける姿を期待する。そしてより良い旋律をつくるために一人一人が音楽を構成する要素を深く吟味することで、自らじっくりと考えることのできる児童の育成につなげていく。

### ② 関わり合う場の設定

様々なチャイムの場面（始業、終業、休み時間、給食、掃除など）からペアごとに「〇〇のチャイム」を指定し、共同でつくることに関わり合いの場を設定する。ワークシートに書いた個人の具体的な考えを元に、お互いのアイデアを共有し、試行錯誤しながら音楽づくりを追求していく。さらにペアでつくる過程で他クラスの児童の作品と比較したり、最終的に異学年や教職員に聴いてもらい感想を伝え合ったりすることで学年間での関わり合いも必然的に活発になると考える。様々な関わり合いを通して、自己の表現を認めてもらえたり、友達の工夫に気付いたりしながら、具体的に表現する児童の育成につなげていく。

### ③ 考えの可視化

それぞれの児童が考える「チャイムにふさわしい旋律」の根拠を示すために、ワークシートを用いる。旋律をつくる上で、なんとなく音を選んでつくるのではなく、音階、音色、音の上がり

下がり、リズム、テンポなどの項目に対し、「このように考えたからこの旋律にした。」などの根拠をワークシートに書くことで児童の考えを可視化し、ペアでの旋律づくりの際にも生かす。

また、本授業では旋律づくりを行う際に Web アプリケーション「カトカトーン」を使用することで、音色、音の上がり下がり、リズム、テンポなどの要素を含んだ旋律の動きを視覚的に捉えることができる。

## 5 単元指導計画・評価計画（全4時間）

時	○主な学習活動	・指導事項	【評価の観点】 評価規準
1	<p>○5音音階について理解する。</p> <p>○都節音階、四七抜き音階、沖縄音階の3つの音階を使った音楽を鑑賞し、それぞれどんな感じがするかまとめる。</p> <p>○それぞれの音階になるよう音盤を抜いたミニグロッケンを使って、即興的に旋律づくりを行う。</p>	<p>・次時で場面のイメージに合わせて音階を選択することを想定し、それぞれの音階がどんな場面に合いそうか考えさせる。</p> <p>・即興的な音楽づくりを行う際には、児童にどうしてこのような「音の上がり下がり」にしたのか発問しながら、児童の思いや意図を確認する。</p> <p>〔教師〕「どうしてだんだん上がるようにしたの。」→</p> <p>〔児童〕「盛り上がる感じにしたかったから」など)</p>	<p>【知】音やフレーズのつなげ方の特徴について、それらが生み出す良さや面白さなどと関わらせて気付いている。</p>
2	<p>○チャイムの意味は何か考え、それにふさわしい音を考える。→（朝、始業、終業、給食、清掃など）</p> <div data-bbox="236 1688 754 1816" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〔意欲〕学校のチャイムを自分たちでつくるという単元のゴールイメージ</p> </div> <p>○個人で好きな5音音階を使って「1時間目始業のチャイム」をカトカトーンで試しにつくり、友達同士で聴き合う。</p>	<p>・前時に学習した「5音音階」を確認する。→都節音階、四七抜き音階、沖縄音</p>	<p>【技】思いや意図に合った表現をするために必要な、旋律やリズムなどを工夫して、音楽をつくる技能を身に付けて実践することができる。</p>



	<p>○つくりたいチャイムの場面の候補を三つ選び、その結果を元に教師がペアを決める。</p> <p>○「〇〇のチャイム」に対し、個人の考えをワークシート（設計図）に記入する。</p> <div data-bbox="236 790 758 871" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">可視化ワークシート</div> <p>○お互いのワークシート（設計図）を見合いながら、2人の考えを絞りペアワークシート（設計図）にまとめる。</p>	<p>階</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ場面でも、一人一人の考え方の違いで様々な音楽が出来上がることを確認する。</li> <li>・ペアのメンバーを決める際は、グループによって児童の音楽的な能力の差が無いよう留意する。</li> </ul> <p>・「〇〇のチャイム」はどんな気持ちやイメージか？ →そこからどんな音楽にしたいか？→その音楽にするにはどんな音楽の要素を選ぶか？〔音色、音階、音の上がり下がり、リズム、テンポ〕→なぜそれを選んだのかという流れで上から順に記入するよう指導する。</p>	
3 本時	<p>前時では個人で好きな5音音階を使って「1時間目始業のチャイム」を試しにつくり、グループで聴き合った。今回はペアで、指定された場面のチャイムをつくる。</p> <p>○ペアワークシートを基にペアで音楽をつくる。</p> <div data-bbox="236 1615 758 1695" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">可視化ワークシート</div> <div data-bbox="236 1711 758 1792" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">関わりペアでの活動</div> <p>○お互いに出来上がった作品を発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを使って考えを可視化する。</li> </ul>	<p>【思判表】音階、旋律、リズムを聴き取り、それらの働きが生み出す良さや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>

	<div data-bbox="236 250 758 331" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>関わり 作品を鑑賞しコメントし合う。</p> </div>		
4	<p>○発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つくった旋律を実際の生活時程の中で聴き、振り返る。</li> </ul> <div data-bbox="236 721 758 801" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>関わり 他学年からのフィードバック</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他学年の児童から感想を集め、フィードバックする。</li> </ul>	<p>【態】音階を基にして音楽をつくることに興味・関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。</p>

6 本時（3時間目／全4時間）

(1) 本時の目標

5音音階を使って、ペアで学校の場面に合った4小節の旋律をつくる。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容・活動	・指導事項 ◇留意点	【評価の観点】 評価規準 (評価方法)
導入 5分	<p>○本時のめあてを確認する。</p> <p>・前時までの学習を確認し、本時のめあてを共有する。</p> <p>→前時では個人で好きな5音音階を使って「1時間目始業のチャイム」を試しにつくり、グループで聴き合った。今回はペアで、指定された場面のチャイムをつくる。</p>	<p>◇パワーポイント（スライド）でめあてや今日の活動の流れを視覚的に確認しやすくする。</p> <p>・児童に問いかけながら、児童の言葉を中心にめあてを確認させる。</p>	
	<p>めあて：ペアで協力してオリジナルチャイムのせんりつをつくろう。</p>		
展開 30分	<p>○ペアで考えを共有し、旋律をつくる。</p> <p>・ペアワークシート（設計図）を基に、ミニグロックンを使って音を試しながら、カトカトーンに入力する。（15分）</p> <p>・隣のペアの作品を聴き、感想を伝え合う。（5分）</p>	<p>◇考えがまとまらないペアへは、教師が質問しながら二人の考えを引き出し、助言する。</p> <p>・ペアワークシート（設計図）を見ながらタブレットを交換して聴くよう助言する。聴くときのポイントとして、①音階の音を使ってつくっているか、ペアワークシート（設計図）の考えと合っているか確認する②友達から良いアイデアを見つけるよう助言する。</p>	<p>【思判表】音階、旋律、リズムを聴き取り、それらの働きが生み出す良さや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>テンポや音色を変えながら、ペアで旋律を仕上げる。(10分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音色の部分はカトカトーンの楽器選択画面で音を聴きながら選ばせる。</li> <li>ペアワークシート(設計図)を見返し、自分たちのイメージする「〇〇のチャイム」に合っているか確認しながら仕上げるよう助言する。</li> </ul>	<p>とおして、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。(ペアワークシート・作品)</p>
まとめ10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇つくった作品を聴き合う。</li> <li>隣のペア同士で作品を聴き合いながらフォームに感想を入力し、コメントし合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアワークシート(設計図)をお互いに見せながら聴き合うよう助言する。</li> <li>フォームの結果をスプレッドシートで出し、児童が共有できるようにする。</li> </ul>	

### (3) 板書計画

**めあて** ペアで協力してオリジナルチャイムのせんりつをつくろう。

- ① せんりつをつくろう (15分)
- ② できたところまで聴き合おう (5分)
- ③ せんりつを仕上げよう (10分)
- ④ 完成したせんりつを聴き合ってふり返ろう (8分)

- 設計図とせんりつが合っているかかくにんしながらつくろう!
- このせんりつがチャイムとして流れたら…とそうぞうしながらつくろう!

**振り返り**

- ペアで協力してせんりつをつくれた。
- 友達の作品に良いアイデアがあった。

## 第5学年 社会科学学習指導案

日 時 令和6年2月9日（金）  
 第5校時 13：30～14：15  
 対 象 第5学年2組 全29名  
 場 所 3階 5年2組 教室  
 授業者 藤井 容子

### 1 単元名 未来とつながる情報

### 2 単元の目標

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
我が国の社会の情報化と産業の関わりについて、国民生活との関連を踏まえて理解するとともに、聞き取り調査や、映像や新聞などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	放送、新聞などの産業が国民生活に果たす役割や、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を多面的に考える力、考えたことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	我が国の社会の情報化と産業の関わりについて、主体的に学習の問題を解決しようとする態度やより社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多面的な思考や理解を通して、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

### 3 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	① 情報を集め発信するまでの工夫や努力などについて、聞き取り調査をしたり映像や新聞などで調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、放送、新聞などの産業の様子を理解している。 ② 調べたことを文や表などにまとめ、放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解している。	① 情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、問いを見だし、放送、新聞などの産業の様子について考え表現している。 ② 放送局の情報を扱う際の工夫や努力などを総合して、放送新聞などの産業が国民生活に果たす役割を考えたり、学習したことを基に、情報を有効に活用するうえで大切なことを情報の送り手の立場から多角的に考えたりして、適切に表現している。	① 放送、新聞などの産業と情報の関わりについて、学習計画を立て、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ② 学習したことを基に、情報の有効活用について送り手と受け手の立場から多面的に考えようとしている。

## 4 指導観

### (1) 教材観

該当する学習指導要領の内容

- (2) 我が国の産業と情報との関わりについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
  - (ア) 放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解すること。
  - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
  - (イ) 情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、産業における情報活用の現状を捉え、情報を生かして発展する産業が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

本学級の児童は、社会科の授業において資料を見ながら、そこから読み取ったことについて意見交換することはできる。一方、疑問を見出し、解決しようとする取り組みまでには至っていない。「なぜ」「どうしてだろう」といった疑問をもち、調べて根拠を見付け、自分たちの社会における課題解決に取り組む態度を養わせたい。

これまで、社会科の授業では、資料から読み取ったことを伝え合う活動を多く経験してきている。「未来を支える食料生産」では、日本の水産業について調べ、自然状況が漁業に与える影響や、生産資源を守る世界各国の取組について理解を深めた。その中で、日本が抱える領土問題に直面し、その問題が自分たちの生活に大きな影響を及ぼしていることを知り、自分たちに何ができるのかを考え向き合うことができた。

本単元では、マスメディアで働く人々の取組について学び、その中で、情報の種類、情報の活用の仕方に着目させていく。また、自分たちの身の回りでも、大量の情報が飛び交い、多くの情報通信機器が使用されていることに気付かせ、産業における情報活用の現状を捉えさせたい。

### (2) 児童観

本学級の児童は、社会科の授業において資料を見ながら、そこから読み取ったことについて意見交換することはできる。一方、疑問を見出し、解決しようとする取り組みまでには至っていない。「なぜ」「どうしてだろう」といった疑問をもち、調べて根拠を見付け、自分たちの社会における課題解決に取り組む態度を養わせたい。

これまで、社会科の授業では、資料から読み取ったことを伝え合う活動を多く経験してきている。「未来を支える食料生産」では、日本の水産業について調べ、自然状況が漁業に与える影響や、生産資源を守る世界各国の取組について理解を深めた。その中で、日本が抱える領土問題に直面し、その問題が自分たちの生活に大きな影響を及ぼしていることを知り、自分たちに何ができるのかを考え向き合うことができた。

本単元では、マスメディアで働く人々の取組について学び、その中で、情報の種類、情報の活用の仕方に着目させていく。また、自分たちの身の回りでも、大量の情報が飛び交い、多くの情報通信機器が使用されていることに気付かせ、産業における情報活用の現状を捉えさせたい。

(3) 研究主題に迫るための手だて

① 意欲を高める授業づくり

「メディアサバイバル！フェイクニュースにだまされない術を身に付けよう」というゴールを設定して、学習をすすめる。単元の初回で、どのメディアから多くの情報を入手しているのかアンケートを取り、集計した結果を基に身近な学習問題を作らせる。また社会科見学でニュース番組や新聞について事前学習することで、メディアに対する意欲を高めさせる。多くの情報が混在するなかで、自分が必要としている情報をいかにして正確に入手するか「メディアの取扱説明書」を作成していくことで、目的意識をもって学習に取り組めるようにする。

② 関わり合う場の設定

各種メディアの中から興味のあるものを選択させてグループ分けすることで、疑問を一緒に調べたり、調べたことを共有したりしやすくする。グループの人数を6人に設定し、それぞれが特徴の根拠となることを持ち寄って交流させることで必然的に関われる場をつくる。各種メディアの発表はブース型発表形式で行い、代表者1人に発表させる。そうすることで、一人一人が発表に向けて相手意識をもち、伝えたいことをどのように表現すれば良いかをグループで関わり合いながらまとめられるようにする。

③ 考えの可視化

メディアの特徴について個人で調べたことをグループで一つのジャムボードに入力し、グループ内で共有させることで、個人の考えを可視化する。また他のグループの考えも自由に見ることができるようにし、他のメディアの情報も取り入れられるようにする。発表に向けて、タブレットや画用紙、ホワイトボードなど考えを伝えるために効果的な方法を選択することで、メディアの特徴を伝える。二次元座標軸を使つての発表を通して、気付いたことを可視化させることで、他のメディアと比較しやすいようにする。

5 単元指導計画・評価計画（全8時間）

時	○主な学習活動	・指導事項 ◇留意点	【評価の観点】 評価規準
1	<p>○情報を入手する手段について、アンケート調査や資料を基に調べ、多くの人に情報を発信する人たちの仕事について、調べたいことを整理し、学習問題をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>意欲自分たちはどのメディアで情報収集しているのかアンケートをとり、その結果を共有した導入</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級で行ったアンケートの集計結果を見て、テレビやインターネットで情報収集していることに着目させる。</li> <li>・社会全体ではどのメディアから情報収集が多いのか資料で確かめさせる。</li> </ul> <p>◇私たちは様々なメディアから情報を入手して暮ら</p>	<p>【態】放送、新聞などの産業と情報の関わりについて、学習計画を立て、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</p>

		していること、多くの人が利用するテレビ放送は、放送局から発信されて届く仕組みが整えられていることを押える。	
2	○前時までの学習を基に、本単元の学習の流れを提示する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ミッション：メディアサバイバル！「メディアにだまされないようにする術を身に付けよう」</p> </div> ○テレビのニュース番組が放送されるまでの様子を、順を追って写真から読み取り、分かったことを整理する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>関わり 資料から読み取ったことの共有</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放送局におけるニュース番組の制作の流れを写真から読み取り、ノートに整理させる。</li> <li>・整理したことを基に、放送局の人々が情報をどのように扱っているか、分かったことを話し合わせる。</li> </ul> ◇調べたい情報について、取材などを通して集める→情報を選ぶ・編集する→情報を伝えるという流れは、テレビだけでなく、新聞やインターネットのメディアでも同じ流れで発信できることを押える。また、この流れでニュース番組をつくるという意識をもたせる。	【思判表】情報を集め発信するまでの工夫や努力などに着目して、問いを見だし、放送、新聞などの産業の様子について考え表現している。
3	○ミッションの確認 ○ニュース番組制作に関わる人々の仕事について1日のスケジュールを通じて調べ、放送局の人々が気を付けていることについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで情報発信をすることを再度確認させる。</li> <li>・「ある日のニュース番組が放送されるまで」の資料から、番組制作のスケジュールや制作に関わる人々の仕事を読み取らせる。</li> <li>・番組制作の各場面でどの</li> </ul>	【思判表】放送局の情報を扱う際の工夫や努力などを総合して、放送新聞などの産業が国民生活に果たす役割を考えたり、学習したことを基に、情報を有効に



	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><b>意欲</b> ミッションの設定による意欲の高まり</p> <p><b>関わり</b> 資料から読み取ったことの共有</p> </div>	<p>ようなことに気を付けているか、写真資料や編集責任者の話などを基に調べ、分かったことをノートなどに整理させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整理したことを基に、放送局で働く人たちが気を付けていること、大切にしていることについて考えをまとめ、話し合わせる。</li> </ul> <p>◇仕事内容や伝え方で気を付けていることを読み取り、ミッションにつなげられるように意識させる。</p>	<p>活用する上で大切なことを情報の送り手の立場から多角的に考えたりして、適切に表現している。</p>
4	<p>○放送局が情報を選ぶ際の考え方、自分たちが情報を受け取る際の影響について各種資料から調べ、マスメディアとしての放送局に求められることについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>可視化</b> メディアが情報発信するまでの流れや注意点を、ノートにまとめ、ミッションを進めるための見通しにつなげる</p> <p><b>関わり</b> 資料から読み取ったことの共有</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放送局ではどのような点に注意して放送するニュースを選んでいるか、編集責任者の話から読み取り、ノートなどに整理させる。</li> <li>・教科書の資料やテレビ番組表などを参考にして、自分たちがマスメディアの情報をどのように生かし、どのような影響を受けているかについて考え、話し合わせる。</li> <li>・情報を広く発信する放送局に求められることは何か、これまでの学習を関連付けて考え、話し合わせる。</li> </ul> <p>◇疑問が解決できるような資料を選んでおき、提示する。</p> <p>◇仕事内容、発表までの流れを全体でまとめ、ミッションに生かすようにする。</p>	<p>【思判表】放送局の情報を扱う際の工夫や努力などを総合して、放送新聞などの産業が国民生活に果たす役割を考えたり、学習したことを基に、情報を有効に活用する上で大切なことを情報の送り手の立場から多角的に考えたりして、適切に表現している。</p>

<p>5 6</p>	<p>○各種メディアの特徴を調べ、まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>意欲</b> 発表に向けて取り組む</p> <p><b>関わり</b> 役割分担をさせ、チームで調べまとめる</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビ、インターネット、新聞、雑誌、ラジオのメディアの中から、調べてみたいメディアを選択し、六人グループをつくらせる。</li> <li>・ジャムボードで、他のグループの情報を調べることができるようにする。</li> <li>・入手した情報を基に、またメディアを比較することで、共通点や相違点を見付けさせる。</li> <li>・メディアの特徴を捉えやすくするために、①ここが強み ②ここでは気を付けようといった二つの視点にまとめさせる。また、理由（なぜ、どうして）を調べさせる。</li> <li>・発表原稿作り、資料をまとめる、発表するなどの役割を分担させる。</li> </ul> <p>◇メディアの特徴を捉えやすくするために、まとめる視点を提示する。</p>	<p><b>【知技】</b> 情報を集め発信するまでの工夫や努力などについて、聞き取り調査をしたり映像や新聞などで調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、放送、新聞などの産業の様子を理解している。</p>
<p>7 本 時</p>	<p>○各種メディアの特徴や活用の仕方について捉え、グループでまとめた資料を発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>意欲</b> 交流会による意欲の高まり</p> <p><b>可視化</b> 交流を通して各種メディアを比較して、それぞれメディアの違いに気付かせる。次の本時の振り返りにつなげる</p> <p><b>可視化</b> メディアの特徴につて、その良さ・課題を、チ付箋でまとめる</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビ、インターネット、新聞、雑誌、ラジオのメディアの特徴についてブース型発表形式による交流会をする。</li> <li>・各メディアの良さ・課題を見付け、情報を入手する速さと正確さを二次元座標軸に付箋で貼らせる。</li> </ul> <p>◇メディアを比較して、メディアの共通点や相違点を見付け、振り返ることができるようにする。</p>	<p><b>【知技】</b> 調べたことを文や表などにまとめ、放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解している。</p>

8	<p>○これまでの学習を基に、各種メディアの特徴について振り返り、マスメディアに関わる人々の工夫や努力についてカードに整理して情報を扱う上で大切なことを自分たちの生活と関連付けながら話し合う。</p> <div data-bbox="229 495 746 613" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>意欲</b> ミッションを振り返り、経験を基に学習をまとめ</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種メディアの特徴や利用状況の変化について捉え、その活用の仕方について多角的に考えさせる。</li> <li>・マスメディアが気を付けていること、大切にしていることを、自分たちの生活や情報の社会的影響と関連付けて考え、ノートに整理させる。</li> <li>・整理したことを踏まえ、自分たちが多様なメディアからどのように情報を受け取り、生活に生かしていけば良いのか話し合い、最終的な自分の考えをまとめさせる。</li> </ul> <p>◇グループの発表(ミッション)を振り返りながら考えをまとめさせる。</p>	<p><b>【態】</b> 学習したことを基に、情報の有効活用について送り手と受け手の立場から多面的に考えようとしている。</p>
---	--	--	---

6 本時（7時間目／全8時間）

(1) 本時の目標

各種メディアの特徴を比較しながら理解し、状況や入手したい情報に応じてメディアを使い分けることや情報をより効果的に発信するために複数のメディアを活用することの必要性を捉えている。【知技】

(2) 本時の展開

時間	○主な学習活動	・指導事項 ◇留意点	【評価の観点】 評価規準 (評価方法)
導入 5分	○前時の振り返りをし、本時のめあてを確認する。	「メディアのよさや課題を見付けよう」	
展開 35分	○発表を聞く際の観点を確認する。  ○調べたことをブース型発表形式にして発表する。(発表タイム5回) ・発表時間5分 入替1分 ・各発表後、速さと入手難易度を読み取る二次元座標軸に付箋を貼る。  ○二次元座標軸から気付いたことを全体で交流する。	・発表を聞く人は、情報の速さと正確さの二つの視点で発表を聞く。その視点について、それぞれ5点中何点か得点化させ、その理由を付箋に書かせる。 ・自分たちのメディアと比較しながら考えさせる。 ◇各メディアの発表を聞き、良さや課題を考えさせる。 ・各メディアの発表者は基本一人、五人前後集まったら発表を始めさせる。 ◇二次元座標軸（早さ、入手難易度）のどこの位置に該当するかシールを貼り、付箋に理由を書かせる。 ・各種メディアのグループで、付箋を確認しながらメディアの特徴をまとめさせる。 ◇全体で共有し、各種メディアの長所や短所の違いに気付くことができるようにさせる。	【知技】 調べたことを文や表などにまとめ、放送、新聞などの産業は、国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解している。 (発表)
まとめ 5分	○学習の振り返り	・各種メディアの特徴について考えたことをまとめさせる。	

(3) 板書計画

今日のめあて

課 **メディアのよさや課題を見付けよう**

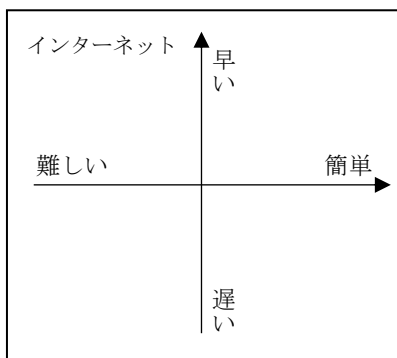
○メディア

テレビ、インターネット、新聞、雑誌、ラジオ

【聞くポイント】

- ・情報を早く入手できるか
- ・その情報の手に入りやすさ

⇒自分たちのメディアと比較しながら聞く。



**二次元座標軸から気が付いたこと**

- ・インターネットは早く調べることができて便利だけど、あまり正確ではない。
- ・新聞は、決まった時間にしか発行しないからあまり早く情報が手に入らない。

**まとめ**

各メディアの良さや課題を理解し、必要な報  
を入手していく。

**振り返り**

他のメディアと見比べることの大切さに気付  
くことができた。

## 第6学年 国語科学習指導案

日 時 令和6年2月9日(金)  
 第5校時 13:30～14:15  
 対 象 第6学年1組 全30名  
 場 所 3階 6年1組 教室  
 授業者 橋屋 瑞穂

### 1 単元名 わたしはこうやって生きていきたい

～筆者の考えを読み取り、メディアや人とのつながりについて伝えよう～

### 2 単元の目標

- ・文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解することができる。
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。
- ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
- ・言葉がもつ良さを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

### 3 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	① 文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解している。	① 「読むこと」において文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 ② 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。	① 積極的に、文と文の接続の関係、文章構成や展開について理解し、学習課題に沿って意見を述べる文章を書こうとしている。

### 4 指導観

#### (1) 教材観

該当する学習指導要領の内容

Ｃ読むこと（１）

ア 事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

本単元では、複数の文章を重ねて読み、それぞれの筆者の主張を捉えた上で、これからの社会と生き方について考えをまとめ、他者と交流することで考えを広げていく学習を行う。

この単元では、メディアやコミュニケーションといった、児童の日常生活と接点がある話題が取り上げられている。さらに筆者の主張が明確で分かりやすい。その教材について、メディアや人との伝わり方についての意見を持ち、身近な大人に伝えることを、単元の最終ゴールとする。そのため、①筆者の意見について自分の考えをもつ。②自分の考えは他の人から見るとどう捉えているのか、(共感や比較、新たな視点)を関わり合いの中で気付き、さらに考えを広げたり再考したりする。③具体的に表現させる工夫として、まとめの時間に友達同士で読み合いをし、本当に相手に伝わる文章になっているかどうか、互いに校正し合う。このような三つの柱を軸とした学習活動を計画した。

ゴールに向けて、自分の考えを形成していくために、単元の始まりの見通しや内容と構造の把握の時間からも、それぞれの教材における自分の読み取りや考えについて、少数での意見交換を行う場を設けた。そうすることで、自分の考えに確信をもったり、相手の意見を聞いて批判的思考をもちながらも「こういう考えもある」と視野を広げたりできる。

※扱う教材について

「メディアと人間社会/池上彰」光村図書

○内容

人間の欲求がメディアを発達させ、高度な情報化社会を作ってきた。人間がどんな欲求をもっているかを意識してメディアと付き合っていくことが大事である。

「大切な人と深くつながるために/鴻上尚史」光村図書

○内容

コミュニケーションは、他者とぶつかったときでもなんとかやっていくためにすること。練習を繰り返してその技術が上達することで、大切な人と深くつながることができる。

## (2) 児童観

1学期に行った「読むこと」の領域「笑うから楽しい/時計の時間と心の時間」の学習では、筆者の考えに関して自分の考えをもつために、事例についてどう思うか、筆者の事例の提示の仕方についてなど、自身の考えを友達と伝え合う活動を行った。場面を想像したり、経験から結び付けたりして考えることができた。また、友達の考えを聞くことで、共感したり違う考えも受け入れたりする経験を積んできた。しかし、「自分の考えをもつ」ことはできても、友達の考えを聞いて、批判的思考で捉えることについては課題が残る。その一つとして、批判的思考の未熟さが考えられる。他者と交流する中で、自分の考えを批判的に多角的に見つめ直し、再考する経験をさせたい。

## (3) 研究主題に迫るための手だて

### ① 意欲を高める授業づくり

単元のゴールは、単元の最後に、身近な大人である保護者に自分の考えを伝える時間を発表の形式で設けた。今では一人1台タブレットの支給で、様々な情報がすぐに得ることができる。ま

た、クラスでは約半数の児童がSNSを利用してコミュニケーションを取っていることが現状としてある。中学校に進学すると、スマートフォンを手にする児童も多くなる。メディアとの付き合い方やコミュニケーションに関して、保護者が不安に感じていることも多くある。卒業という新たなステージに向かう児童が、この学習を通して、確固たる自分の意見を発表させて安心させる場を設定する。

## ② 関わり合う場の設定

自分の考えを確立していくために、多くの友達の考えを聞き、考えを広げていくことで、自分の新たな視点に気付くことができるのではないかと考えた。

手だてとして、教材文に対する自分の考えを友達に聞いてもらい、批判的思考をもってフィードバックする。その意見に対し、自分の意見を再考する。校正の時間を設け、友達と見合う。

このような手だてが、様々な考えを聞きながら根拠を明らかにして自分に確信をもつためには有効であると考えた。

## ③ 考えの可視化

この単元では、自分の意見を広げていくことが大切である。自分の考えを友達と共有し、意見をもらえるように、Googleドキュメントを使い可視化する。自分の意見をすぐに相手に伝えることや相互にフィードバックできる共同作業の場を設けることができる。タブレット上で考えの交流をし、コメントを書き込んでもらうと同時に、すぐに意見もらえることが効果的であると考えた。気になった部分にコメントが寄せられるので、それに対し再考するため、考えも広がると思う。共同編集を行うことで、自分たちで批判的思考の視点をもって友達の意見を見るため、本時のめあてを達成できると考えた。

## 5 単元指導計画・評価計画（全7時間）

時	○主な学習活動	・指導事項 ◇留意点	【評価の観点】 評価規準
1 見通し	<p>○メディアについて自分が感じていることや人とのコミュニケーションについて大切にしていることを交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">可視化</span> ジャムボード  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">関わり</span> グループでの活動         </div> <p>○2つの教材文を読み、気付いたことや考えたことなど、ノートに書き、共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">可視化</span> ノート  <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">関わり</span> ペアでの活動         </div> <p>○単元のめあてを確認し、学習計画を立</p>	<p>・共有する時の、フィードバックのポイントを伝える。 「なぜ、そう思ったのですか」。 「本当にそうなのですか。」 「どういう意味ですか？」</p> <p>◇ジャムボードを使ってグループごとに考えを出し合わせる。</p>	



	<p>てる。</p> <p><b>意欲</b>「保護者へ伝える」というゴールイメージ</p> <p>単元のゴール 二つの文章をもとに、これからの社会でどう生きていくかについて、自分の身近な大人へ伝える。</p>		
2 内容と構造の把握	<p>○「メディアと人間社会」を読み、論の展開の仕方や表現の仕方を知る。</p> <p>○筆者の考えを読み取り、自分の考えをもつ。</p> <p><b>可視化</b>ドキュメントへの入力</p> <p>例：テレビやインターネットを通して様々な情報が伝わる。また、SNSを通し情報のやり取りができる。手軽にやり取りができる点が良い。</p>	<p>・筆者の論の展開や構成の工夫、事例の挙げ方、表現の特徴を捉えさせる。</p>	<p>【知技①】文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解している。</p>
3 内容と構造の把握	<p>○自分の考えを友達と共有し、再度自分の考えをまとめる。</p> <p><b>関わり</b>グループでの活動</p> <p>例：テレビやインターネットを通して様々な情報が伝わる。また、SNSを通し情報のやり取りができる。手軽にやり取りができる点が良い。</p> <p>例：テレビやインターネットを通して様々な情報が伝わる。また、SNSを通し情報のやり取りができる。手軽にやり取りができる点が良い。しかし、いつでもどこでもやり取りができるため、本当に必要な情報を交換しているのか、今自分は何を求めて情報を欲しているのかを立ち止まって考えていく必要がある。</p>	<p>・共有する時の、フィードバックのポイントを伝える。 「なぜ、そう思ったのですか。」 ⇔「本当にそうですか。手軽なだけ。危険性は、必要じゃない情報についてはどうするのですか。」 「どういう意味ですか。」</p>	<p>【思判表②】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 内容 と 構造 の 把握</p>	<p>○「大切な人と深くつながるために」を読み、論の展開の仕方や表現の仕方を知る。</p> <p>○筆者の考えを読み取り、自分の考えをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">可視化ドキュメントへの入力</div> <p>例：私も友達とささいなことですれ違ったことがあります。それからは、がまんすれば良いかなと思っていましたが、がまんだけでは良いコミュニケーションが取れないということが分かりました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の論の展開や構成の工夫、事例の挙げ方、表現の特徴を捉えさせる。</li> <li>・共有する時の、フィードバックのポイント伝える。 「なぜ、そう思ったのですか。」 「本当にそうなのですか。」</li> </ul>	<p>【知技①】文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解している。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">5 内容 と 構造 の 把握  本時</p>	<p>○自分考えを友達と共有し、再度自分の考えをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">関わりグループでの活動</div> <p>例：私も友達とささいなことですれ違ったことがあります。それからは、がまんすれば良いかなと思っていましたが、がまんだけでは良いコミュニケーションが取れないということが分かりました。筆者が「コミュニケーションはお互いがうまく折り合いをつけるための技術」と言っているし、「いろいろな相手といろいろな場所で何度もコミュニケーションしていくうちに、話し方や断り方、アドバイスのしかた、要求のしかたが得意になっていく」と言っているからです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共有する時の、フィードバックのポイント伝える。 「なぜ、そう思ったのですか。」 「本当にそうなのですか。」</li> </ul> <p>⇔「筆者のどの考えからそう思ったのですか。」</p>	<p>【思判表②】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">6 精査 ・ 解釈</p>	<p>○二つの教材文を比べながら読み、それぞれの特徴の違いや、考えの共通点を整理する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">可視化ベン図の活用</div> <p>○二人の筆者の考えと自分の知識や経験とを照らして気付いたことや自分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整理する際に表を使いながらまとめ、共通点や異なる点について分かりやすくする。</li> </ul> <p>◇ジャムボード上のベン図を使いながら、自分の考えとの共通点や異なる点を付箋</p>	<p>【思判表①】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。</p>

	の考えとの共通点や異なる点を書く。	に入力し貼らせる。	
7・8 考えの形成	<p>○モデル文やモデル文の資料となるものを提示し、書き方のポイントを押さえる。</p> <p>○前々時に考えたベン図を用いたり、前時でグループごとにまとめた考えを参考にしたりしながら、モデル文を参考に自分の考えを文章化していく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">可視化ドキュメントへの入力</div> <p>○書いた文章を友達と見合い、本当に伝わる文章になっているかどうか校正し合う。</p> <p>○清書する。</p>	<p>・モデル文やモデル文となる資料を提示し、書き方のイメージがつかめるようにする。</p> <p>◇書くことが苦手な児童には、ワークシートを配り、フォーマットに当てはめながら書けるようにする。(書き方の選択)</p> <p>・どういう文章なら相手(保護者)に伝わるのか、児童から出たポイントを押さえるとともに足りない個所を補わせる。</p>	<p>【思判表①】「読むこと」において文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。</p> <p>【態①】積極的に、文と文の接続の関係、文章構成や展開について理解し、学習課題に沿って意見を述べる文章を書こうとしている。</p>
9 共有	<p>○書いた文章を大人(保護者)に伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">意欲保護者からのフィードバック</div> <p>・主張発表会形式で行う。 「卒業に向けて～わたしはこうやって生きていきたい～」発表会</p>	<p>・児童はタブレットを使って、それぞれの発表を聞いた感想を入力させる。</p> <p>・保護者には、発表会終了後、聞いた感想や応援メッセージカードを書いてもらうようにする。</p>	

## 6 本時 (5時間目/全9時間)

### (1) 本時の目標

「大切な人と深くつながるために」を読み、自分の考えを友達と伝え合い、考えを再考する。

### (2) 本時の展開

時間	○学習内容・活動	・指導事項 ◇留意点	【評価の観点】 評価規準 (評価方法)
導入5分	○前時の学習の振り返りをする。	・前時の学習を思い出したり、どのようなことをしたのかを確認したりして、児童の発言を中心に活動の流れを把握させる。	

	○本時の課題を確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <b>課題</b>  自分の考えを説得力のあるものにしよう。 </div>	
展開① 20分	○自分の考えを友達と共有する ・教材の内容を確認するため、学習グループで音読をする。 ・前時に書いた自分の考えを友達と伝え合う。(三人程度) ・友達の考えに対する自分の意見をGoogleドキュメントに入力する。 ・Googleドキュメントに書かれた友達の考えについて自分の考えを述べる。	・音読が終わったグループから、前時までに入力してある自分の考えを共有し、意見を入力するように指示する。 ・友達の考えに対して自分の考えを伝える際には、批判的思考を用いてGoogleドキュメント内でコメントさせる。 ◇交流の際、コメントを送信する前に一度読み直させる。 ◇質問がある場合は、直接聞いても良いことを伝える。 ◇入力の仕方や、聞き方が分からない場合は、聞き方ポイントカード(批判的思考の質問の仕方のカード)を渡し、質問できるようにする。	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <b>質問カード</b>  ○なぜ、そう思ったのですか。  ○本当にそうなのですか。  ○筆者のどの考えからそう思ったのですか。 </div>	
展開② 15分	○友達の考えも元にしながら、自分の考えを再構築する。 ・共同編集で挙げたコメントを元に、改めて考えをドキュメントに書く。	・Googleドキュメントを見直しながら、自分の考えについて再度書くように伝える。 ◇友達からもらった考えが解消されているか考えながら入力させる。 ◇書き上がったら全部通して読ませる。 ・二つの点を確認する。 ①言いたいことが伝わるかどうか。	【思判表②】「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。(ワークシート)

		②友達の考えを反映させているかどうか。	
まとめ5分	○振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの視点を提示する。</li> </ul> ①交流をして自分の考えは広がったり深まったりしたか。 ②新しい考えは生まれたか。それはどのようなものか。	

(3) 板書計画

<p>自分の考えを生かして二つの教材文の共通点を次回は探そう。</p>	<p style="text-align: right;"> <b>課</b> 大切な人と深くつながるために          自分の考えを説得力のあるものにしよう。       </p> <p>筆者が伝えたかったこと</p> <p>自分はどう思ったか</p> <p>批判的思考く聞き方く          自分の考えを伝える          ↓タブレット上で共有          「筆者は○○と言っているよ。」          「例えば、筆者が言っている○○についてはどう思う。」          「○○ってどういうこと。」          「あなたの考えに対して、自分は○○だと考えたよ。」</p> <p>振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交流をして自分の考えは広がったり深まったりしたか。</li> <li>・新しい考えは生まれたか。それはどのようなものか。</li> </ul>
-------------------------------------	--